

- 1 読初の文字なき絵本絵解きせり
- 2 夢に色なくて墨絵の宝船
- 3 千本の影を整へ針供養
- 4 たひらかに鉱石図鑑開き春
- 5 浅春の紙一枚で足る手紙
- 6 春霽イエスの若き土不踏
- 7 如月や銀色の傘細く締め
- 8 春は曙不器用なると言ふをどこ
- 9 貝塚の貝は帆船地虫出づ
- 10 スニーカーの砂きらきらと卒園す
- 11 春開けてアンリ・ルソーめく植物園
- 12 吊雛めでたきものは土のもの
- 13 納めたる雛ひとつに箱ひとつ
- 14 鋏に雲掠め段段畠打つ
- 15 青き踏む面白きこと面白く
- 16 眼を開けて眠る魚や星朧
- 17 ブラインドかさりと折れて風信子
- 18 種を蒔く祈りにも似し無口にて
- 19 イラストは横顔ばかり四月来る
- 20 西行の色となりゆく花篝
- 21 花冷の壁一面のナイフかな
- 22 朝市の魚に歯のある復活祭
- 23 木苺の花自転車で来る教師
- 24 目借時紙の金魚の金魚鉢
- 25 紙ふうせん花を扱ふごと畳む

- 26 二個積みめば積木のお家(うち) さへづれり
- 27 永き日の逆さに覗く児の奥歯
- 28 須磨琴の淡き木目に春惜しむ
- 29 炊事場の鹽(たらい)の大小昭和の日
- 30 絵曆に農具の並び夏隣
- 31 貝殻を箆に載せ売る島薄暑
- 32 家青く塗りたる街の聖五月
- 33 新樹光オルゴールよりメヌエット
- 34 切紙をひろげ一面祭来る
- 35 分校の蓋開く机さくらの実
- 36 シャンパンの泡星となるみどりの夜
- 37 母の日の靴を揃へて脱ぐ漢
- 38 土のこと水のこと聞き苗を買ふ
- 39 草笛を吹くとき肩のあがりやう
- 40 どくだみの花しらじらと島の朝
- 41 青青と田に抱かれて草を取る
- 42 夏薊頭(ず)よりも高き馬頭琴
- 43 夏至の夜や美しき背骨の魚料理
- 44 背中より海の音抜け籐寝椅子
- 45 レース編む花のかたちの影揺らし
- 46 餡蜜や独身である理由など
- 47 砂山の仕上げに大暑の手をあてて
- 48 カヤックのみどりの櫂さす夏の雲
- 49 海見えてまぶしき坂の氷菓売
- 50 あかがねの山河額に持つ蘭鏝

- 51 空蟬の草一本で立つ構へ―
- 52 江戸風鈴どの間口にも植木鉢―
- 53 洗ふ時厚き児の足雲の峰―
- 54 二階より既に水着の児がきたる―
- 55 かき氷祖父への手紙書き終へて―
- 56 箱庭の夕日へすこし吹く砂金―
- 57 大西日飛ぶ鳥長き脚揃へ―
- 58 星涼し碧浮く螺鈿の航海図―
- 59 新涼の手桶を鳴らす牛の乳―
- 60 星迎家族の数の傘を干し―
- 61 学位記も精霊棚のものうち―
- 62 青空をまばらに捌く芒の穂―
- 63 雁渡し金具大きな黒鞆―
- 64 鰯雲糸で仕切れる造成地―
- 65 コスモスは児を抱く腕によき軽さ―
- 66 ねこじやらし駆けだす時は唄ふ時―
- 67 白菊に童子の触れて朱の走り―
- 68 飛鯊の額に余る目玉かな―
- 69 小鳥来る青き薨の神学校―
- 70 秋燕船荷倉庫に灯の入る―
- 71 月祀るうす紅の透く加賀千菓子―
- 72 星月夜牛馬の貌の女神たち―
- 73 長き夜のあちらこちらに紙の束―
- 74 十三夜父の短き子守唄―
- 75 篆刻の鳥走りさう秋灯―

- 76 林檎剥く魔女の仮装の母が剥く――
- 77 サークスの猿酔ふ仕草ましら酒――
- 78 流れ星古代より妻嫉妬する――
- 79 鳥渡る櫛に禱りの飾紐――
- 80 葉紐ひとすぢ青き夜寒かな――
- 81 小雪や虹色ドロップ戸に隠す――
- 82 冬の鋭角黒曜石の古鏃――
- 83 十二月八日ケーキを崩し食ふ――
- 84 梵字ある小石を磨く漱石忌――
- 85 三角がいばつてゐたるおでんかな――
- 86 毛糸編む膝にあふるる大河編む――
- 87 あやとりや万物最後は一つの輪――
- 88 霜降る夜紅き封蝨解くナイフ――
- 89 さざなみの万の尖れり冬の月――
- 90 梟や煎じ薬の火は青く――
- 91 一つづつ児が星を塗り待降節――
- 92 金の玉こぼさず纏ひ大聖樹――
- 93 首にメジャー掛けたる男毛皮店――
- 94 釣銭の笹を提げたる年の市――
- 95 煤逃や日時計の針逃げてをり――
- 96 寒稽古一人三役紙相撲――
- 97 膝を抱く根付の猿や悴みて――
- 98 雪もよひ座繰(ざぐり)の糸の里噺――
- 99 雪吊の雪が消えずに載るところ――
- 100 麵麩(パン)窯の石あかかと春隣る――